
ぶくぶく

滑稽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶくぶく

【Nコード】

N0139A

【作者名】

滑稽

【あらすじ】

放課後の保健室。僕と彼女は出会った

「私ミミズになりたいのかもしれないわ。」

放課後の保健室。

僕の後ろで彼女はそう洩らした。

保健室には毎日居る僕だけど、彼女とは初めて会った。

僕に言っているわけでは無く。

ただ感じ、思ったままに口を開いた。そんな風。

僕は返答など求めていない彼女に言葉を渡した。

「」

それから毎日彼女は放課後、保健室に来る。

だけど僕達に会話などなかった。

ただ彼女は僕を見つめていた。

何かを求めているように。切なげに。嬉しそうに。

けれど僕は知らない振り。振り振り振り振り

ある日。彼女は思い詰めた顔をして保健室にやって来た。手には…

…カッターを持ち。

最悪の場合に備えて、僕は彼女から距離を取ろうと試みた。

だけれど此処は閉じられた場所。

僕はすぐ壁にぶつかった。彼女のカッターが視界に入り、僕は口を

パクパク

自分を情けないとは感じなかった。

彼女が怖い。

彼女の顔が恐ろしい。

いや……その目。

眼球が……きよろきよろきよろ。

定まらず。きよろきよろきよろ。その間僕は彼女から逃げ惑う。

何分くらい、そうしていただろう。

不意に彼女が座り込み。

きよろきよろ動かしている瞳から透明なキラキラの雫を……

ソレは彼女の白く柔らかそうな頬を辿り、ツンと尖っている顎までいくとポトリ。と落ちた

「あたしには貴方しかないのに……何も話してくれない貴方しかないのに」

語り出した彼女の瞳からは止まる事を忘れたかのようにポトリ。ポトリと雫が……

彼女はカッターを持ったままの右手で制服の左袖をめくった。

「ミミズ……みたいでしょ？」

僕に見えやすいようにか左腕を差し出す。いつの間にか、僕は彼女の近くに……

『ミミズ』だ。

彼女の白い肌を染め侵してしまおうとしているかのように幾筋も。幾筋も。紅の筋が

「こうやって……あたしはミミズを産むの。」

左腕にカッターを押し当て、新たなミミズを産んでいく彼女。

「あたし……どうしてこんな事をするのか分からないの。でも気づいた。」

ミミズを産んでいる彼女は顔を上げ微笑んだ。

やっぱり雫を落としながら、きよろきよろ眼球を動かしながら…

「あたしミミズになりたいのよ。こうやって一体になりたいのよ。」

彼女はカッターを床に置き、指でミミズをなぞる。何度も何度も…

「ぶくって膨れてる私の左腕。」

僕は彼女を見つめた。

彼女と僕の目が合う。瞬間、まるで解け合うような感覚。彼女は口を動かす。

『ぶくぶくぶくぶく』

僕と彼女が混ざり合うかのような……

「今日、あたしが産んだミミズ達は数日後には立派なミミズとなるの。」

彼女と一体になりかけの僕に彼女は微笑みながら語る。僕は彼女だけを見つめる。

彼女はまた『ぶくぶく』と呟いて僕に微笑む。

僕はずっとぶくぶくぶくと繰り返す。ぱくぱくぶくぶく。

「貴方があたしと初めて会った時、貴方はあたしにこう言ったわ」

『ぶくぶくぶく』

彼女は微笑み。僕に語る。

「先生に聞いたの。貴方が病気に犯されてるって。後何日かの命だつて。」

分かった。僕はきつと後何日かで死んでしまうのだろつと。

「許さない。」

彼女は天井を鋭く睨み付ける。

「あたしから奪おうとするものを…今まさに奪おうとしているものを。許さない。」

それがたとえ病だとしてもね。と彼女は天井から僕に視線を移し微笑む。

「あたし達ぷくぷく仲間よ。あたしは左腕にぷくぷくのミミズを飼っている。ぷくぷくぷくぷく。」

言いながらまた、ミミズをなぞる。なぞる。

「貴方は……でしょ？」

後数日は大丈夫だと思ってた僕はあんまり自分が永く無いことに気づいた。

きつと彼女も分かったのだろう。

僕が逝ってしまう前に全てを伝えようと早口になる。

「だからあたし達ぷくぷく仲間。仲間。あたしと貴方は仲間。あたしはぷくぷくのミミズになりたかった。きつとそう。だからあたしの左腕という一部にした。貴方も……。許さない許さない許さない。仲間なのに、あたし達……。貴方一人で……。一部に……。」

いよいよ僕は終わろうとしている。

最後に見たのは彼女が僕に両手を差し伸べている姿。

一人になった彼女はまたぷくぷくになろうと、或いは一人ではなく、一つになろうと、放課後の保健室の水槽に両手を入れ、彼を飲み込んだ……ぷくぷくぷくぷくぷくぷくぷくぷく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0139a/>

ぷくぷく

2010年10月28日03時51分発行